

ボディプリント絵本=保育所の子供たち×「空気の建築；ANT 119」

出前授業で「空気の建築；ANT 119」（当館所蔵作品）を題材にした鑑賞と造形活動が一体となったプログラムを保育所で行いました。



はじめに、実物（手、足、顔、おへそ、アイロン、リンゴなど）に絵の具を塗り紙に直接プリントしたり、紙に実物を置きその上から絵具をスプレーで吹き付けたりしてできた図柄などを紙芝居にしたのを見ました。それが何の形なのか、どうやって表したのかをクイズにして当てっこをしました。そして作品の掛け図をみんなでじっくり見て、気づいたことや思ったことを話し合いました。「人が落ちよう、危ない」「バレーを踊っている人がいる。」「白い雲みたいところに吸い込まれてみたい。」

子どもたちの眼をとおしてどんどん見えてくる絵のなかの世界は、生命が息づき子どもたちの生活や経験がどんどん重なっていくようでした。



この作品が、実際の人体に青い絵の具を塗って画面に押しつけたり、体の上から絵具を吹き付けたりして制作されていることを話して、実際に、自分の体に絵具を塗り、大きな紙にボディプリントを行いました。



はじめは、指先にちょっと絵具を付けて紙にぺたぺたしていた子も、気づけば手や足だけでなくおなかやほっぺに絵具を気持ちよさそうに塗っていました。

子供たちが全身で表した作品はどれも楽しさが伝わってくるようです。細長い紙にボディプリントされた作品は、一部をお借りして、折り本などにしました。



やさしく手にとってご覧ください。

※写真は徳島市立明善保育所の子供たちです。

出前授業は、7月6日にとくしま健祥会保育園（5歳児クラス）、8月8日に徳島市立市明善保育所（4, 5歳児クラス）で実施。講師は、友井伸一上席学芸員
ボディプリント絵本は、保育所から作品をお借りして美術館で作成しました。